

平成28年度（第10期事業年度）決算の概要について

平成29年9月15日

北海道公立大学法人 札幌医科大学

1 はじめに

本学は、平成19年4月に地方独立行政法人法に基づく公立大学法人となり、今回、第10期目の財務諸表について平成29年9月6日付けで、設置者である北海道知事の承認を受けました。

この財務諸表は、企業会計原則を基本にしつつ、公立大学法人特有の会計制度を加味した「地方独立行政法人会計基準」に基づき作成したものであり、本学の財政状況と運営状況を示すものであります。

(注) 財務諸表は、貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書、利益の処分に関する書類、行政サービス実施コスト計算書及び附属明細書で構成しています。

2 財務諸表の概要について

(1) 財政状況

平成29年3月31日現在における本学の財政状況は、次のとおりです。

(資産)

資産の合計額は、約481億3千万円（対前期8億円増）で、うち、土地、建物、工具器具備品等の固定資産が約387億9千万円、現金及び預金等の流動資産が約93億4千万円です。

(負債)

負債の合計額は、約118億4千万円（対前期4億7千万円増）で、うち、資産見返負債、長期借入金等の固定負債が約51億円、未払金等の流動負債が約67億5千万円です。

(純資産)

純資産の合計額は、約362億9千万円（対前期3億3千万円増）で、うち、北海道からの出資金である資本金が約356億4千万円、利益剰余金が約39億8千万円です。

(2) 運営状況

平成28年度における本学の運営状況は、次のとおりです。

(費用)

経常費用は、約324億3千万円で、主なものとしては教育研究費等が約22億3千万円、診療経費が約141億7千万円、人件費が約152億2千万円です。

診療経費は、病院診療の増加に伴い医薬材料費が増加したことにより、対前期4億4千万円増となっています。

人件費は、退職者の減少による退職手当の減少等により、対前期 2 億 3 千万円減となっています。

(収益)

経常収益は、約 3 2 5 億 5 千万円で、主なものとしては、北海道から交付された運営費交付金収益が約 5 8 億 7 千万円、授業料等収益が約 8 億 3 千万円、附属病院収益が約 2 3 9 億 4 千万円です。

運営費交付金収益は、退職手当の減少等により対前期 1 億 8 千万円減、附属病院収益は、診療単価の増加により対前期 4 億 4 千万円増となっています。

(損益)

経常収益から経常費用を差し引いた経常利益は、約 1 億 2 千万円で、対前期 3 千万円増となっています。

(臨時損益)

臨時損失は、約 1 億 2 千万円で、対前期 1 億 1 千万円増となっております。これは手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」のリース借換えに伴い、既存の機器を除却した際に発生した費用が主な要因となります。

(総利益)

当期総利益は、約 1 千万円で、対前期 8 千万円減となっています。

(3) 利益処分

当期総利益については、経営努力の結果として中期計画に定めた使途に充てるための「教育・研究、社会貢献及び組織運営の改善目的積立金」に全額積み立てることとして、北海道知事の承認を受けています。

3 おわりに

第 2 期中期計画期間（平成 2 5 年度～3 0 年度）においても、北海道から交付される運営費交付金は毎年計画的に縮減されることとなっており、今後も厳しい財務運営が予想されますが、教育・研究・診療活動の充実・発展のため、より一層の経営努力を行い、財務内容の改善・充実に努めて参りますので、今後ともご支援とご理解を賜りますようお願いいたします。